

平成17年度知床国立公園利用適正化検討会議
知床半島中央部地区作業部会(第1回)
議事概要

平成17年12月6日 15:10～16:00

トーヨーグランドホテル(中標津町)

1. 開会

2. あいさつ 環境省釧路自然環境事務所長

3. 議事

(1) 知床半島中央部地区利用適正化基本計画の具体化について

資料1 作業部会の設置経緯・検討内容・検討方法について

資料2 「基本計画」からの具体化の方法について

資料3 具体化検討の前提となる共通認識 事務局説明

【質疑応答】

(座長) 資料1～3、特に資料2について、質問、意見はないか。

(網走南部森林管理署 署長)

資料2において最優先事項は18年度に検討を始めると言われたが、期限はどの程度を考えているのか。それからカムイワッカについては、先月危険度の調査が行われ報告書がまとめられるがその時点で行政のレベルで今後打ち合わせ願いたい。

(事務局) 基本的に1年間で何らかの結論を出したいと考えている。

(羅臼遺産) 羅臼湖のA+の指定は良いと思う。現在利用者の急増によりダメージがひどく木道の整備も視野に最優先であたって頂きたい。

(小林委員) 資料2の3各エリアの検討課題をもう少しわかりやすくしてほしい。やはり問題がまずあり解決方法が示されていないと、どの方法で解決するのが最良か判断できない。プロセスをきちんと出すべき。

(知床財団 亀山) 資料2の2の部分で、検討エリア「カムイワッカ」の関連エリア「車道沿線」となっているが、関連エリアとして「ホロベツ園地」も加えて欲しい。マイカー規制で関連する。

(森林センター所長) B以下は来年度以降検討しないのか。BやCに入っているものでもAにつな

がるものは一緒にやっていくこともあるのか。

またこの位置付けは今後変更可能か。

(座長) そういう認識で良いのではないか。

(事務局) そう考えている。C については当面特に検討は必要なく、B については一般的な問題でありその中で特に緊急性を要するものを A としている。また先ほど一年間で検討すると言ったが、A にあるものでも2年かかるものもあるかも知れないし、B から上がるものもあるかもしれない。その都度優先順位は考えていく。

(森林管理局 井上調整官) この優先順位と、以前検討した自然体験タイプや基本的方向性との関係はあるか。B- とロ-1が優先になっているのか。

(事務局) 世界遺産の指定により顕著に問題が起こっているところや IUCN の指摘を踏まえた国の方針を元を選んでおり、特にそういう関連性はない。

(森林管理局 近藤課長) 中央部地区についてはある程度利用する場所と保護する場所が明確になっていると思う。そういった中で基本計画の具体化の中ではAの地域で施設利用を前提とした計画をしていくとの認識でよいか。

(事務局) 施設のある場所の利用をどうしていくかを検討していくが、ソフト面も検討課題になる。

(知床財団 山中事務局長) 利用を図るかは別にして、現在利用がある場所については施設がない山岳部や溪流部等もある。そういう場所の利用の仕方も検討すべき。

(中易委員) 利用のルールその他、施設整備の方法も検討するのか。施設整備を検討して利用のルールを検討するのか。施設整備が重点的なのか。

(座長) 両方なのでは。

(事務局) 標識のようなものも施設であり、施設の利用というより、その地域をどう利用するか検討する中で何らかの必要な施設が入ってくると考えていただければと思う。

(小林委員) 資料3の5ページ(8)の部分で、実施状況のモニタリングやその結果の解析・評価等のフィードバックとあるがこれが鍵を握っていると思う。これは一つの作業部会が立ち上がるくらい重要なものだと思う。全部やれとは言わないが別立てで調査予算を組んでいくくらいでないと難しい。例えば連山、羅臼湖の問題にしてもどういう指標を立ち上げ、どう評価するかを明らかにしなければ対策の効果があったか評価ができない。知床財団が実施している利用調査以外にも自然環境への影響の調査も含めてやっていくべき。

- (座長) モニタリングは並行してやっていくべきだろう。一種のデザインというかターゲットがあるとやり易い。
- (羅臼町) 資料2の4ページ羅臼湖のアクセスに関する利用調整と歩道整備の問題は離れたものであり2つの項目にわけると、明確に位置付けを分けて検討すべき。アクセスの問題が進まないと歩道も進まないのでは困る。
- (事務局) 歩道整備のレベル設定は、アクセスと切り離せない問題と考えている。分けて考えず一括して考えていくべき。
- (座長) それでは小林委員のおっしゃったように問題点を抽出すること、個別にはカムイワッカにホロベツ園地を入れること、また今のご意見などを踏まえて今後の会議を進めていきたい。次回からは A+、A 及び関連する部分について、平成18年度末を目指し議論していく。

参考資料 知床の世界自然遺産登録前後における観光利用の変化と課題 知床財団説明

- (知床財団) 資料の通り、知床五湖とカムイワッカは大変な状況となっている。世界自然遺産としてどうなのかと言われかねない状況である。
また自然センターのカウンターは一般客の対応また電話のマスコミの問い合わせでどうにもならない状況となっている。マナーの普及については全ての機関が協力していかねばどうにもならないと実感している。
- (座長) 今後の日程その他、説明願いたい。
- (事務局) 今年度もう一度開催するかはまだ未定だが、できればもう一度やりたいと考えている。

閉会